

「岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査」結果報告

(平成22年9月24日)

目次

1.	調査について	2
2.	調査結果	3
	A 研究活動向上のための支援について	3
	B メンター事業について	5
	C 女性研究者支援の対象について	7
	D 回答者の属性	8
	E 自由記述の回答	9

1. 調査について

「岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査」は、科学技術振興調整費女性研究者支援モデル育成事業「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」の実施2年目にあたり、本格的に女性研究者支援を行う上で必要となる情報を収集するため、主として個人の研究活動向上のために行う支援とメンター事業のニーズを把握することを目的として実施した。実施にあたっては、平成21年秋に実施した「岡山大学男女共同参画推進に関するアンケート調査」の結果を参考にした。

調査準備	平成22年7月～8月
調査期間	平成22年8月24日～9月7日(約2週間)
調査手段	メールにより案内しWeb上で実施
調査対象	常勤の女性教員全員(平成22年7月1日時点で在籍する213名)
回収率	24.8%(53名)
データ入力及び分析	平成22年9月

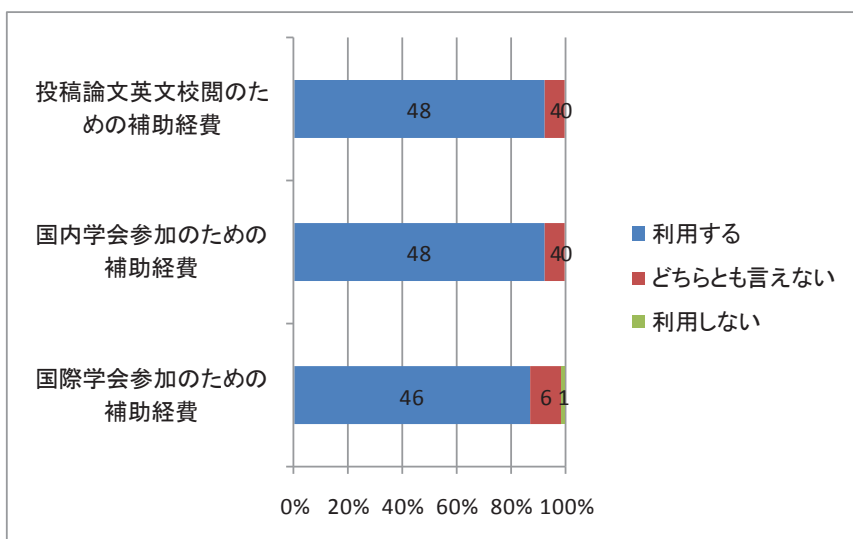
2. 調査結果

A 研究活動向上のための支援について

問1から問3では研究活動向上のための支援について尋ねた。

問1の「あなたは、以下のような研究スキルアップ支援が岡山大学にあった場合、利用しますか?」という質問では、「国際学会参加のための補助経費」、「国内学会参加のための補助経費」、「投稿論文英文校閲のための補助経費」の3つの支援について利用希望を尋ねた。3つの支援それぞれに関して9割近くの回答者が「利用する」と回答し、個人の研究活動を直接的にサポートするタイプの支援が普遍的に求められていることが窺われた。

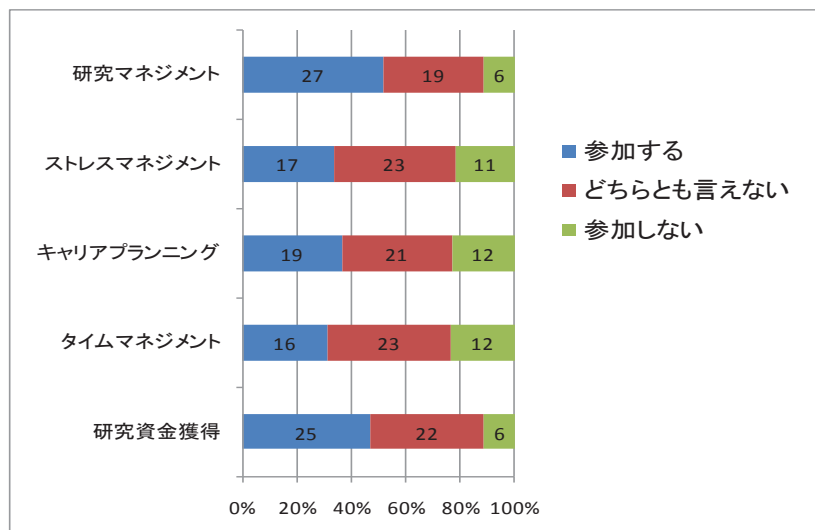
問1. あなたは、以下のような研究スキルアップ支援が岡山大学にあった場合、利用しますか?



問2では、「研究資金獲得」、「タイムマネジメント」、「キャリアプランニング」、「ストレスマネジメント」、「研究マネジメント」という、一般に女性研究者のエンカレッジメント・セミナーとして開催されている5つのトピックについて参加の関心を尋ねた。全体として、回答者は「参加する」という参加に積極的な者と「どちらとも言えない」という態度をあきらかにしない者にと2分した。その中で、「研究マネジメント」と「研究資金獲得」に関しては半数近くの回答者が参加希望を示しており、研究者としての生活を送る上で役に立つとされる一般的なスキルよりも、直接的に研究活動に関わるスキルを身につける機会への関心の高さが窺われた。

本学では、既に研究資金獲得セミナーを実施済み(平成22年9月16日)であるが、今後も予算が許す限りこのようなセミナーを実施していく必要があると考えられる。

問 2. あなたは、以下のようなことについて学ぶ機会があった場合、参加しますか？

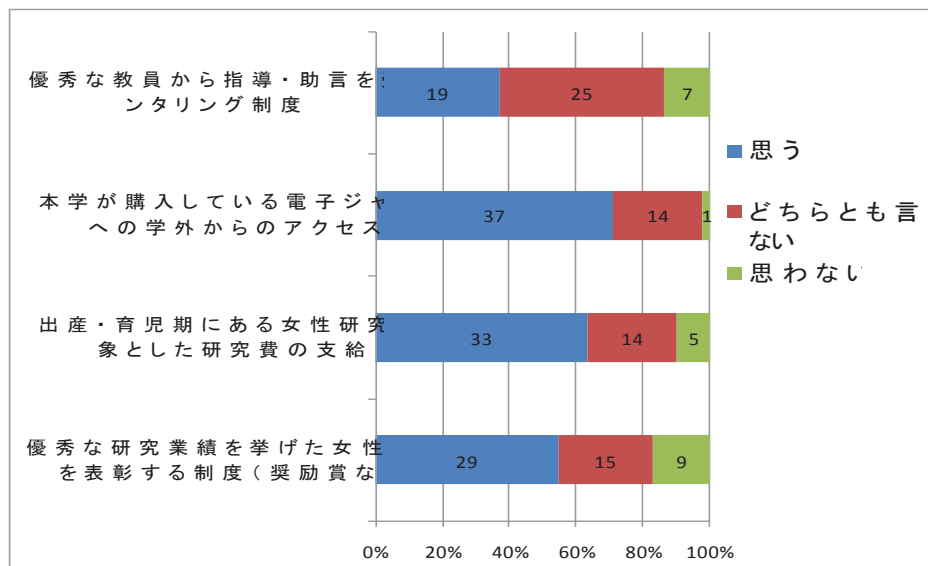


問3では、女性研究者支援を積極的に行っている大学で最近行われている4つの新しい制度について本学の女性教員の意見を尋ねた。「あなたは、以下のような制度が岡山大学にあった場合、女性教員の研究活動がより活発になると感じますか？」という問いに対し、最も積極的な意見が多かったのは「本学が購入している電子ジャーナルへの学外からのアクセス」で、7割程度の回答者が肯定的な意見を示した。一方、「優秀な教員から指導・助言を受けるメンタリング制度」は「どちらとも言えない」という曖昧な態度を示す回答が約半数に達した。

このように新しい制度に対する回答者の反応が制度により大きく異なっているのは、制度の浸透度合いを反映して教員の間での制度に関する知識が異なるからであるといえそうだ。電子ジャーナルは既に多くの教員が利用しているため、学外でも利用できるようになることで利便性が高まると考える者が多いのではないかと考えられる。逆にメンタリング制度は、「メンタリング」という用語自体がまだ一般的でないこともあって、積極的に考える回答者が少なかったのではないかと推測される。

なお、調査終了直後の9月中旬には一部電子ジャーナルの学外での利用が可能となった。男女共同参画室では、現在メンター事業を女性研究者のための研究サポートの一環として整備しており、メンター養成研修やメンタリングに関するセミナーを実施中である。今後、メンタリングへの理解と需要が高まっていくことが期待される。

問 3. あなたは、以下のような制度が岡山大学にあった場合、女性教員の研究活動がより活発になるとお考えですか？

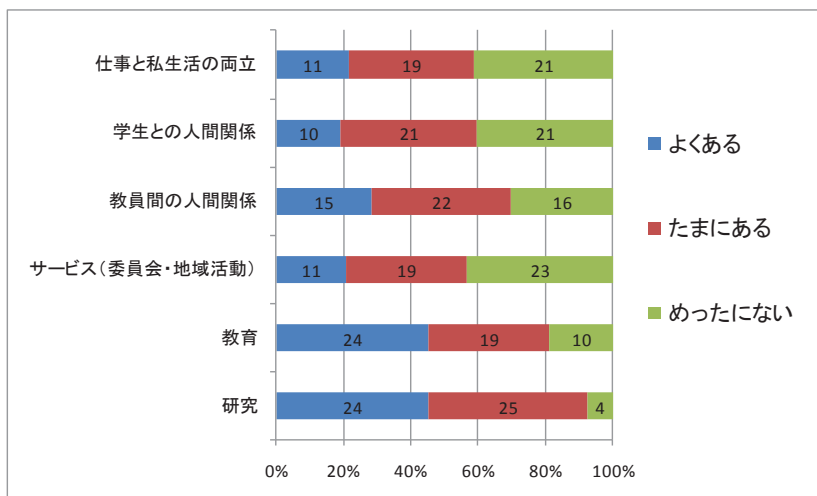


B メンター事業について

問 4 と問 5 では、メンター事業の構築を始めるにあたって、女性教員が職業生活上の問題について相談をすることがあるかどうか、また、その場合には誰に相談するのかを尋ねた。

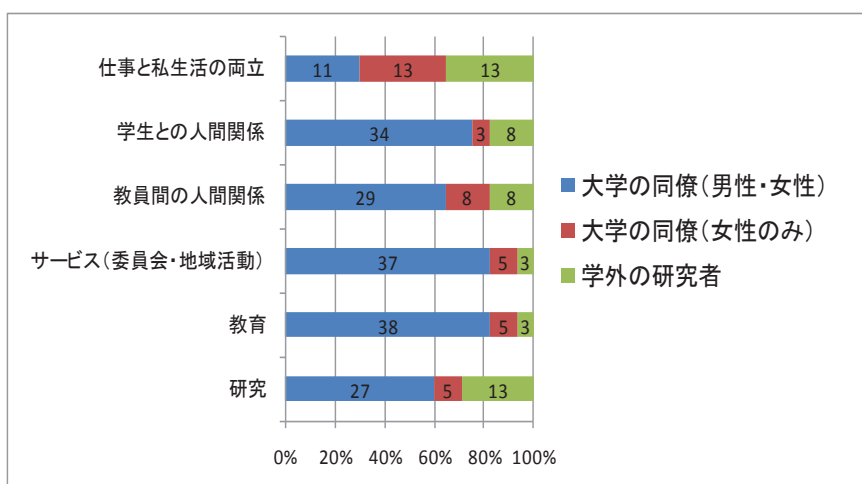
まず問 4 では、大学教員の職業生活に関わる 6 項目(「研究」、「教育」、「サービス(委員会・地域活動)」、「教員間の人間関係」、「学生との人間関係」、「仕事と私生活の両立」)について誰かに相談をすることがあるかどうかを尋ねた。その結果、「研究」と「教育」に関してのみ半数近くの女性教員が「よくある」と回答した。「よくある」に「たまにある」を加えると、「研究」に関しては 9 割以上、「教育」に関する回答者も 8 割以上の回答者が「ある」と回答しており、女性教員は教育と研究という大学教員の主たる業務について相談する頻度が最も高いことが分かる。

問 4. あなたは、以下のことについて誰かに相談をすることがありますか？



次に、これらの事項について相談する場合に誰に相談するかを尋ねたところ、問 5 で女性教員が最も相談することがあると回答した「研究」に関しては、回答者の3割近くが「学外の研究者」を相談相手として挙げた。これに対し、「研究」に次いで相談することが多かった「教育」及び「サービス(委員会・地域活動)」という大学による特殊性が高いと考えられる事項に関しては、「大学の同僚(男性・女性)」に相談する女性教員が9割を超えた。なお、「仕事と私生活の両立」に関しては、「大学の同僚(女性のみ)」に相談すると回答した者が半数近くいた。

問 5. あなたは、以下のことについて相談する場合、誰に相談しますか？

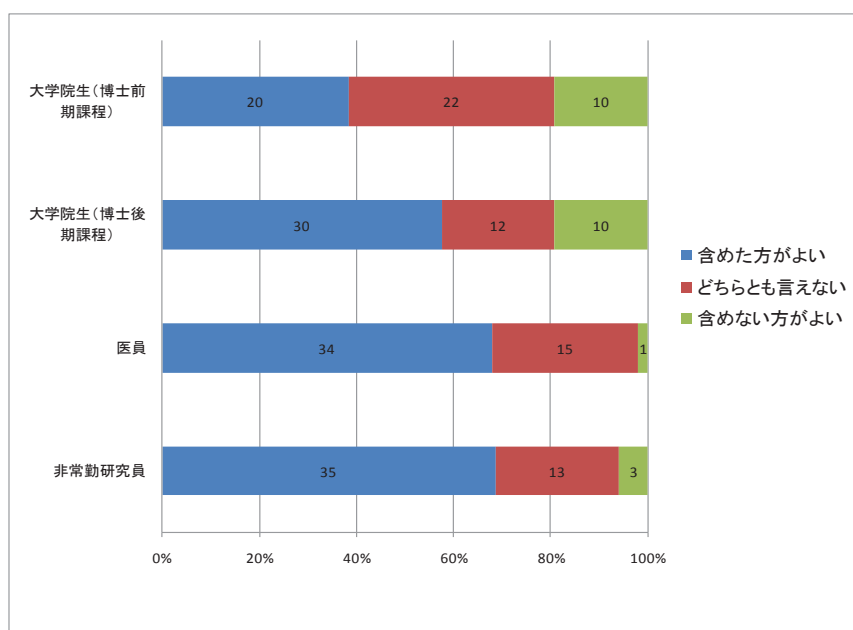


このことから、「仕事と私生活の両立」に関しては女性として家庭責任という課題を共有しているために女性教員が主たる相談相手になっているものの、それ以外の大学教員としての職業生活に関する事項に関しては大学の同僚が男女を問わずに相談相手となっている様子が窺われる。

C 女性研究者支援の対象について

最後に、多くの女性教員にとっては唐突な質問であったかもしれないが、「女性研究者支援の対象について、以下の人達を含めることについてどう考えますか？」という質問を問6で行った。この質問は、本学における女性研究者支援を有効に進めていくにあたって、女性研究者支援の現在の主たる受益者である常勤の女性教員が、その他の女性の大学構成員に対してどのような同僚意識を持っているかを把握するために行った。

問 6. 女性研究者支援の対象について、以下の人達を含めることについてどう考えますか？

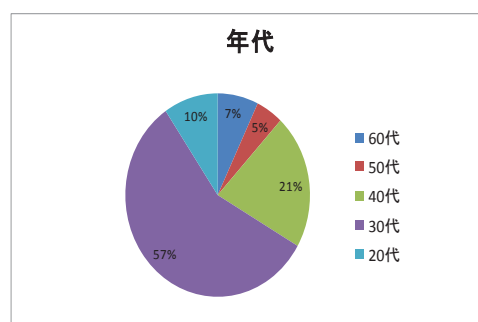
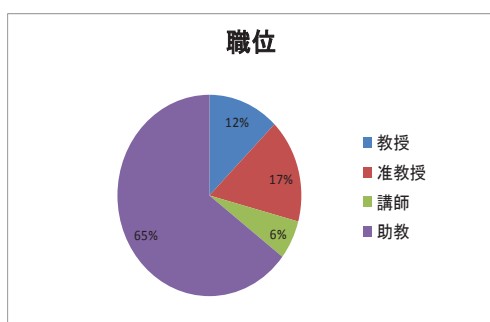
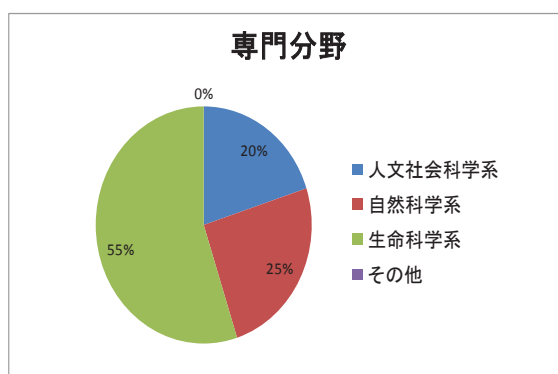


予測されたことではあったが、博士号保持者であることが多い「非常勤研究員」及び「医員」として大学で雇用されているグループについては、7割近くの回答者が「含めた方がよい」と回答した。逆に、「含めない方がよい」と考えている回答者は極一部にとどまった。

一方、大学院生に関しては見方が二分した。「大学院生(博士後期課程)」については過半数が、「大学院生(博士前期課程)」については4割程度が「含めた方がよい」と考えていたが、その一方で「どちらとも言えない」と考える者も多く、「含めない方がよい」と考える者も2割程度いた。前期・後期課程を含めて大学院生を女性研究者支援の対象とすることに対しては賛否両論あるといえる。

D 回答者の属性

最後に、問7で回答者の属性を専門分野、職位、年代について尋ねた。回答者のうち、55%が生命科学系(医・歯・薬・保健等)、25%が自然科学系(理・工・農・環境等)の教員で占められており、理系の教員が回答者に占める割合は、実際に理系の教員が女性教員全体に占める割合よりも高かった。職位は、助教が65%と回答者の過半数を占めており、准教授(17%)、教授(12%)、講師(6%)が続いた。年代別に見た場合、30代の教員が占める割合が過半数を超えていて、40代(21%)がこれに次いだ。20代(10%)、60代(7%)、50代(5%)の割合はいずれも低かった。



E 自由記述の回答

自由記述の回答については、回答数が少なかったため、分析は行わず、回答をそのまま紹介するにとどめる。

問1「その他にあった方がよいと考える研究スキルアップ支援があればお書き下さい。」

- ・女性研究者支援といって女性ひとくりに優遇される措置は不自然に感じる。女性が研究を続けられるような環境整備はむしろ多くのPI(男性)が意識すべき問題が多く含まれると感じる。たとえば、公的会議や説明会、セミナーなどが18時以降に開催される例など。保育園や学童保育の充実などはやられているようだが、車での通勤を保育を主に担当する女性研究者には認めるとか、具体的な優遇措置が望まれる(家事全般を主に担当する女性は幼児だけでない。現在高校生の子供がいるが、時間に追われる生活は以前と何も変わっていない)
- ・研究をするうえで国内・海外出張をする間の子供のベビーシッター費用を補助するようなものがあればよいと思う。
- ・学会に限らず、シンポジウム等にも幅を広げていただければと思います。
- ・文献を集めたり、コピーをとったり、多くの資料のファイリングと、ちょっとした出費が重なってつらい。一回が少額で、研究室に申請するほどでもないかと、なってしまう 年間少額でいいので個人で使える研究費または事務費がほしい。

問2「その他に研究生活に関して学んでみたいと思われることがあればお書きください。」

- ・英会話トレーニング(ただ漠然と意思を伝えるだけでなく、討論に対応しうるだけの英会話力を身につけたいです。)
- ・リーダーシップ
- ・この手の内容については、男女の差はあまり感じられない。むしろ個人的な問題なので、男女問わず希望者があれば充実させればよいのではないか
- ・今回の研究支援員事業もありがたい制度だとは思いますが、期間も短く雑務が増えることを考えるとあまり有効とは思えない。本当にサポートすべき女性研究者(ポテンシャルプラス養育環境をふまえて)を数年援助する形にするか、あるいはある程度自由に使える研究費として配分するのがよいのではないか?
- ・海外留学に関するハウツー
- ・出産、育児期の研究と家庭(特に育児)の両立の仕方
- ・なし
- ・質問とは異なりますが、、学ぶ機会があっても、時間がとれない。育児との兼ね合いで、時間外

は無理であるし、時間内は診療が入っている。お知らせが急にきても、行くことはできない。

- ・英会話 外国の研究者と話すとき、非常に困る
- ・なし

問3「その他に研究活動を活発にする効果があると思われることがあればお書きください。」

・気楽に参加できるサロンがあるとよい。学生に対して、基本的な礼儀・作法、学問的倫理意識などを教えるために、かなりの時間を取られている。一般教養などでいっせいに教えてもらえば、研究時間が捻出できる。

・家族に介護者がいる女性研究者への非常勤研究補助員の配置、家族に介護者がいる単身赴任女性研究者への交通費支援、休暇措置

・学童などの育児支援がセットでなければ、困難だと思います。

・男性教員の実質的な理解

・男女問わず研究活動をもっと盛んにするような仕組みが必要だと思う。

・必要以上の女性優遇にならないように注意すべき

・金銭的な援助よりも、時間的な余裕と、成果主義に固執しない評価体制など、女性の子育てを支援するシステム作りと組織内の意識改革が必要だと思う。下手にお金をもらっても、消化する時間と暇がない状態であれば、自分の首を絞めるだけだと思う。

・その他の研究活動を活発にする効果があると思われること」ではありませんが、項目の3つ目の電子ジャーナルへの学外からのアクセスはすぐにでも実現してほしい内容です。産休・育休中は学内からのアクセスは不可能にも関わらず、学外アクセスを可能にするシステムが現在はありません。なんらかの早急な対応をお願いします。

・出産・育児のため、出勤できなくても、研究が続けられる環境(立場、研究費、環境)

育児と仕事について相談できるメンターがほしい。自分の子供より、少し、年上の子供がいる人が身近にいてくれたら、と思うことが多い。自分自身も、経験を誰かに生かしてもらえたら、うれしい。

・産休を取りやすく、また戻ってきやすい制度作り、大学の附属または提携の保育施設、ベビーシッターなどの設備面の充実、結婚後(特に育児期)は結婚前とは勤務状態が当然変わるでしょうという全体への啓蒙、男性研究員や職員が育児、家事に参加しやすい制度作り

・出産・育児期にある女性研究者を対象としたサポーター制度

・「出産・育児期にある女性研究者を対象とした研究費の支給」についてですが、子育て中の女性研究者に不足しがちなのは研究費というよりも時間と体力ではないでしょうか。もちろんその費用で技術員を雇う、作業の一部を外注に出す、などして時間を買うことも可能ですが、それであれば「研究支援員事業」などでカバーできると思います。研究に費やす時間は少ないのに予算だけ増える、となると予算を使い切れずに無駄な買い物をして消化するという結果になりかねません。

女性研究者へのさまざまな配慮がなされることは大変心強く思いますが、男性研究者の中には「逆差別ではないか」という意見をお持ちの方がおられることも感じております。女性研究者支援は常

に適切で有意義なものでなければ、実際的に支援が意味をなさないばかりか、上記のような意見をお持ちの男性研究者からの反発を招くことになりかねません。

その意味ではこのようなアンケートなどで研究者自身の意見が反映されていくのは非常によい取り組みだと思います。今後とも定期的にこういった機会を設けていただきたいと願っております。

問 6「その他、含めた方がよいと考える人達がいればお答えください。」

- ・院生を含める場合には、男性も含めたほうがよいと考えます。
- ・大学院が終了後にも研究をする人に対しては支援が必要。大学院では男女は関係ないと思う
- ・支援の対象の範囲は広くしておき、審査で適するかどうかと判断すべき。ただし、支援内容をもつと自由度の高いものにして本人の最も必要とするものに充てることができるようにしたほうがよいと思う。
- ・後期研修医、研究生
- ・プロジェクトで雇用されているポスドクについても考慮されてよいのでは(非常勤研究員がこれに該当するのでなければ)。それぞれについて、各雇用形態にあわせた支援(雇用形態によって異なる支援内容)が検討されてもよい(るべき?)ではないかと思います
- ・学生であっても、将来受けられる支援を知る方法があってもよい。その意味において、学生も含めた方がよい。
- ・技術職員

岡山大学における女性研究者支援に関するニーズ調査

このニーズ調査は、昨年秋に実施した「岡山大学男女共同参画推進に関するアンケート調査」を踏まえて常勤の女性教員の皆様を対象に行うものです。今後の岡山大学における女性研究者支援を進めていく上で参考にさせていただきます。ご多用中誠に恐縮ですが、9月7日(火)までにご回答していただきますようお願いいたします。

問1. あなたは、以下のような研究スキルアップ支援が岡山大学にあった場合、利用しますか？
利用する=1、どちらとも言えない=2、利用しない=3でお答えください。

- 国際学会参加のための補助経費 1 2 3
国内学会参加のための補助経費 1 2 3
投稿論文英文校閲のための補助経費 1 2 3

その他にあった方がよいと考える研究スキルアップ支援があればお書きください。

問2. あなたは、以下のようなことについて学ぶ機会があった場合、参加しますか？
参加する=1、どちらとも言えない=2、参加しない=3でお答えください。

- 研究資金獲得 1 2 3
タイムマネジメント 1 2 3
キャリアプランニング 1 2 3
ストレスマネジメント 1 2 3
研究マネジメント 1 2 3

その他に研究生活に関して学んでみたいと思われることがあればお書きください。

問3. あなたは、以下のような制度が岡山大学にあった場合、女性教員の研究活動がより活発になると思えますか？
思う=1、どちらとも言えない=2、思わない=3でお答えください。

- 優秀な研究業績を挙げた女性研究者を表彰する制度(奨励賞など) 1 2 3
出産・育児期にある女性研究者を対象とした研究費の支給 1 2 3
本学が購入している電子ジャーナルへの学外からのアクセス 1 2 3
優秀な教員から指導・助言を受けるメンタリング制度 1 2 3

その他に研究活動を活発にする効果があると思われることがあればお書きください。

問4. あなたは、以下のことについて誰かに相談をすることがありますか？
よくある＝1、たまにある＝2、めったにない＝3でお答えください。

- 研究 1 2 3
- 教育 1 2 3
- サービス(委員会・地域活動) 1 2 3
- 教員間の人間関係 1 2 3
- 学生との人間関係 1 2 3
- 仕事と私生活の両立 1 2 3

問5. あなたは、以下のことについて相談する場合、誰に相談しますか？
大学の同僚(男性・女性)＝1、大学の同僚(女性のみ)＝2、学外の研究者＝3、
その他＝4(具体的には)でお答えください。

- 研究 1 2 3 その他
- 教育 1 2 3 その他
- サービス(委員会・地域活動) 1 2 3 その他
- 教員間の人間関係 1 2 3 その他
- 学生との人間関係 1 2 3 その他
- 仕事と私生活の両立 1 2 3 その他

問6. 本学における女性研究者支援の対象について、以下の人達を含めることについてどう考えますか？
含めた方がよい＝1、どちらとも言えない＝2、含めない方がよい＝3でお答えください。

- 非常勤研究員 1 2 3
- 医員 1 2 3
- 大学院生(博士前期課程) 1 2 3
- 大学院生(博士後期課程) 1 2 3

その他、含めた方がよいと考える人達がいればお答えください。

問7. 最後に、あなた自身についてお尋ねします。

専門分野

- 人文社会科学系
- 自然科学系(理・工・農・環境等)
- 生命科学系(医・歯・薬・保健等)
- その他

職位

- 教授
- 准教授
- 講師
- 助教

助手

年代(平成22年8月1日現在)

20代

30代

40代

50代

60代

アンケートは以上です。内容をご確認の上送信ボタンを押してください。

送信

やり直し